

うらばなし6

へんしゅう

# 「隣合って作業して調整した感じですよ。」

「一番手間がかかったのは、松下の『ありふれた話。』(笑)」

「『時間が無かったね！全体的に！』というのがありますね。よく間に合ったなって。」



シュ 最初から、5分きっかりで終わらせようとしていたんですか？  
 土井 そうですね。僕は脚本のこと、設計図だと思っています。その設計図を書くには、最初に説明があって、次に何分で何が起きて、2分半ぐらいのところつかむところがあって、解決に向かって終わりっていう、教科書みたいなものがあるんです。

だから、尺が5分無いと解決までたどり着けない。  
 シュ リミットいっぱいというところで、難しい部分はありましたか？  
 土井 台本的には5分で収まるようにしていますが、やはり撮影した素材が多いので、大まかな流れは編集の石山さんに作ってもらって、ここは伸ばしたいとか、ここに入れたいとか伝えて、調整してもらいました。  
 石山 基本的には僕がみんなの設計図を基に流れを作り、それをみんなにフィードバックして、再調整しながら完成させる感じです。普段の編集作業はリモートで行うんですが、「にちじょう」だけは、土井が別の作品の編集作業をやっていたこともあり、隣合って作業して調整した感じです。  
 土井 あれが一番楽なんですよ(笑)ここはこうやって欲しいとか直接言えて。  
 石山 二人でパソコンを並べて、お互いのをチェックするという…怒涛の数日間でした。

シュ 編集作業で大変だったことはありましたか？  
 石山 「にちじょう」に関しては苦労しませんでした。自然の流れで、各シーンの中で1番いいところを取れば5分にまとまった。どうしても、何秒かこぼれるところを、どこで調整するかみたいな戦いはありましたけど。一番手間がかかったのは、松下の「ありふれた話。」(笑)  
 シュ それはどうして？



石山 カットが多いのと監督のこだわりが強すぎるっていう(笑)  
 シュ 音楽もこだわってましたね。  
 石山 音楽のブロックごとに、こんな展開が欲しいというオーダーがあって、素材が多すぎたり少なすぎたりして、どう帳尻合わせるかって。  
 松下 ありがとうございます(笑)

石山 武田の「なまでら」は、シーンごとにお芝居がつかなくなって(笑)  
 武田 大変申し訳ございません！(笑)  
 石山 並べてみたら、全然違うことになってる・・・  
 武田 そこはもう僕の問題です。  
 松下 いい経験できたね。  
 石山 まあ・・・「時間が無かったね！全体的に！」というのはありますね。結局4日間ぐらいで作り直したから。よく間に合ったなって。  
 シュ 以前から編集はされていたんですか？  
 石山 いえ。OR→Pの活動の中で始めました。  
 土井 編集はプロレベルです。バラエティ番組1本作れるぐらいの(笑)  
 CD 武田さんと松下さんは、またレッドカーペットにチャレンジしてみたいですか？  
 武田 僕はやってみたいです。  
 シュ ファイナリストですもんね。  
 武田 あれ、自分も意表を突かれたというか。  
 土井 ダークホースだったもんで(笑)  
 武田 本人が、一番エツ!!て(笑)  
 CD 「ゴーン」で、鐘の音も入れて欲しかったですな。  
 武田 僕は木魚の音を入れて欲しかったんです・・・  
 石山 「チーン」て素材しか、見当たらなかった。鐘の方がお寺っぽかったよね。  
 シュ 火も炊かれてましたよね？  
 武田 偶然です。お炊き上げをやっていたので、音だけでも使わせてもらおうと。僕は、人間味がある話がいいと思っていたので、お寺お寺というよりは、空間としてぼやっとしていた方がいいと思っていました。だからロケ地も庭を選びました。



にちじょう 出演  
 松下 美優 (まつした・みゆ)



1989年生まれの29歳。東京都出身。志事務所所属。2004年から俳優活動を始める。一時休業後、現在の事務所に誘われ、活動を再開。映画やテレビドラマ・CM、舞台等出演多数。  
 「ストラップシューズ」(中込陽大)を主題歌とした第2回愛川レッドカーペット応募作品「ありふれた話。」で、初めてショートムービーを監督する。特技は水泳。趣味はお酒。